

■「居住福祉」という考え方
近年、「住宅費負担の重い国・持ち家重視の国ほど若者の世帯形成率・出生率が低くなっている」ことが明らかになっています。海外では「住宅は最大の福祉制度」との考え方が一般的なのです。

■人口減少問題への挑戦
市では3年前から若者支援住宅の整備に向けた検討を始めています。若い人たちに安くて良質な物件を提供することは、人口減少対策に大きな効果があるとの考え方によります。

近年の調査に、日本の夫婦は平均2人の子どもを産むというデータがあります。つまり、結婚した夫婦はよほどの理由がなければ子どもを産み育てているわけで、このことから少子化の原因が未婚にあるとする見解はうなずけるものと言えます。では、なぜ結婚しない人が増えているのか。その理由の一つに、「経済的理由」があげられます。若者を取り巻く経済格差の問題です。

地方の若者の多くは実家で暮らし続けるのが当たり前となっています。その理由はさまざまですが、一つに経済的負担を軽減させるためだと思います。それがダメなわけではありません。ただ、それが出会いや結婚の機会を減らしている原因の一つとなっています。もし若者の自立を促し、結婚につなげることが少子化

若者支援住宅

対策にとって大事なことであれば、若者のいちばんの経済的負担である住宅コストを軽減することに十分な妥当性はあらずです。

■転出入状況
若者支援住宅の整備を進めるもう一つの理由は、にかほ市における転出入状況にあります。今回、男性・女性と県内・県外をそれぞれクロスさせて分析したところ、大変興味深い結果が得られました。中でも際立った特徴を示したのは、男性の県内・県外の転出入状況でした。実は、これまでにかほ市の男性の県外の転出入の差はほとんどありませんでした。むしろ、令和の2力年に限っては県外からは転入者数の方が上回っています。それとは逆に、県内では長年にわたって転出者の方が多く、大幅なマイナスとなっていました。

問題とすべきは、県内への転出者が多いことです。これは地元就職した若者が、住む場所を市外に求めて出て行ってしまっていることを意味しています。昨年度に実施したアンケートに「市内に賃貸住宅が少ない、あっても家賃が高い」などの理由があげられていました。つまり、多くの人が家賃の低い近隣他市に転出してしまっているのです。若い人たちにとってにかほ市は、「働く場所はあるても住む場所がない」、そういう場所だ

皆さん、こんにちは。仁賀保高校eスポーツ部です。今年度よりパソコン部の活動の一環で取り組んできた「eスポーツ」が、部として活動をすることになりました。

本校でeスポーツに取り組み始めたのは平成30年の秋でした。各種大会出場に向けて活動を始め、昨年行われた鹿児島国体eスポーツ秋田予選では見事に優勝し、北海道・東北ブロック大会に進むことができました。今年度も各種大会に出場していて、国体予選では昨年を引き続き優勝することができ、これまでの活動が結果に結びついていることを実感しています。

eスポーツは単にゲームをするのではなく、野球やサッカーなどのように統一したルールの中で対戦するもので、その中で最善の方法を探していく過程はリアルスポーツと遜色ありません。eスポーツを通じてリアルスポーツへの興味や関心、ゲーム制作の仕組みなどを考えることができ

皆さん、こんにちは。このコラムでもう一点お伝えたいのはTDKとの関係についてです。皆さんも存じのように、ここ数年のTDKの採用活動は活発です。昨年度も秋田地区だけで100人を超える社員を採用しています。今年度の高校生への求人状況も活発です。一方でTDKも希望する人数を地元だけで確保できず、地元外から社員を採用しなければならない状態が続いています。

隣市でまちづくり事業の話が報道されました。本市でも同社と同じ課題を以前から共有し、意見交換を続けてきました。お伝えしたいのは、今回の若者支援住宅の取り組みは社員住宅が不足するTDKと無関係なものではないということです。むしろ、市とTDKが協力して取り組むことで、そこに新たなコミュニケーションも作り出していける相乗効果の高い事業になると私は考えています。



にかほ市長
市川雄次

NikaHomeroom



皆さん、こんにちは。仁賀保高校eスポーツ部です。今年度よりパソコン部の活動の一環で取り組んできた「eスポーツ」が、部として活動をすることになりました。

本校でeスポーツに取り組み始めたのは平成30年の秋でした。各種大会出場に向けて活動を始め、昨年行われた鹿児島国体eスポーツ秋田予選では見事に優勝し、北海道・東北ブロック大会に進むことができました。今年度も各種大会に出場していて、国体予選では昨年を引き続き優勝することができ、これまでの活動が結果に結びついていることを実感しています。

eスポーツは単にゲームをするのではなく、野球やサッカーなどのように統一したルールの中で対戦するもので、その中で最善の方法を探していく過程はリアルスポーツと遜色ありません。eスポーツを通じてリアルスポーツへの興味や関心、ゲーム制作の仕組みなどを考えることができ

eスポーツで 地域貢献し 地域発展を目指す

吹奏楽コンクール高等学校小編成の部
金賞(4年ぶりの県大会出場)

吹奏楽部員が減少してからの昨年度までの大会は9人や6人での参加でしたが、今年は2桁の10人で出場する事ができました。県大会までは残りわずかですが、練習時間を大事にし県大会でも仁賀保高校らしい演奏をしていきたいと思えます。10月には仁賀保勤労青少年ホームで定期演奏会を開催します。ぜひ来場ください。



私たちの取り組みでにかほ市の発展の一端を担うことができればと考えています。興味のある方はいつでも見学にお越しください。

そのため、部の活動がリアルスポーツへの入り口になったり、ゲームをする側からゲームを作る側を目指すことに繋げばと考えています。そして、本校eスポーツ部はeスポーツによる地域貢献を考えています。最近ではeスポーツを活用した医療に注目が集まっています。

秋田県立
仁賀保高等学校

本校では、ボランティア活動による地域貢献、情報発信力強化による地域の活力向上など、地域課題の解決に向け「自分たちのまちを、未来を、楽しく面白く」していくためのアイデアを形にしていく取り組みを行っています。

